

紀伊半島大水害 復旧・復興の現状と取組

平成27年2月更新版

奈良県紀伊半島大水害
復旧・復興推進本部

目 次

◆	これまでの復旧・復興の主な動き	P	1
◆	避難の状況	P	2
◆	復興住宅の建設	P	3
◆	新しい集落づくり	P	4
◆	インフラ等の復旧状況	P	5
◆	紀伊半島アンカールート	P	9
◆	農林業関係の復旧状況	P	11
◆	産業の復興状況	P	14
◆	観光業の復興状況	P	15
◆	福祉の充実	P	16
◆	安全・安心への備え	P	17
◆	地域産業復興の取組	P	19
◆	ふるさと復興協力隊	P	20

◆これまでの復旧・復興の主な動き(計画策定以降)

平成24年

3月26日 第6回本部会議
・「復旧・復興計画」及び「同アクション・プラン」の確定について
・平成24年度以降の復旧・復興推進体制について
(本部会議に計画推進会議及び計画推進チーム(8チーム)を設置)

4月 1日 復旧・復興担当副知事を配置
・土木部に深層崩壊対策室設置
・南部農林振興事務所に「復旧・復興調整係」設置

4月24日 第23回紀伊半島知事会議

5月18日 「災害復旧・復興に係る国の法令等の改善について」の政府提案活動

6月 5日 第3回国・三県合同対策会議(東京)

6月11日 第7回本部会議

8月31日 避難者の早期帰宅に向けた知事・3市村長
記者会見

9月 6日 第1回復旧・復興シンポジウム

9月10日 第8回本部会議

11月26日 第9回本部会議

9月 5日 第2回復旧・復興シンポジウム
～インタープリバント2014プレイベント共催～

11月11日 第13回本部会議

11月23日～24日 なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)

平成26年

2月24日 第14回本部会議

4月30日 十津川村避難解消

6月11日 第15回本部会議

7月20日 野迫川村避難解消

9月 1日 第3回復旧・復興シンポジウム

9月11日 第16回本部会議

10月4日～5日 なんゆう祭2014

11月15日 天皇皇后両陛下 紀伊半島大水害被災者
とのご懇談

11月20日 第17回本部会議

12月25日 奈良県災害対策本部の廃止

12月26日 五條市避難解消
(県内全ての避難指示・勧告解除)

平成27年

2月12日 第18回本部会議

平成25年

1月28日 復旧・復興関係の3県(奈良県・和歌山県・
三重県)合同政府提案活動

2月19日 第10回本部会議

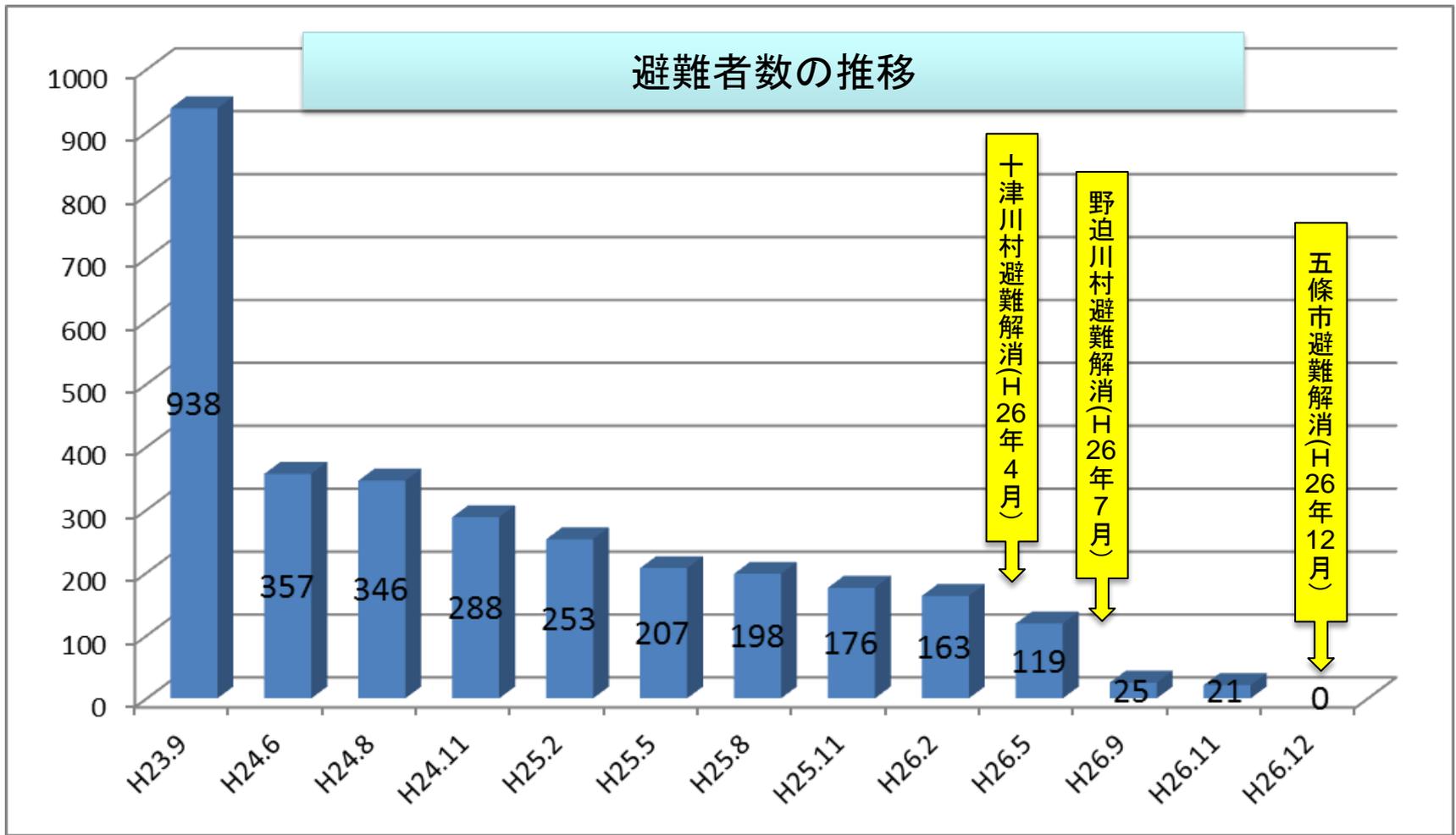
6月13日 第11回本部会議

9月 2日 第12回本部会議

◆避難の状況

【これまでの取組成果】

被災直後（平成23年9月5日）938人 → 現在 0人 ※すべて避難解消



◆復興住宅の建設

【これまでの取組成果】

復興住宅24戸 **すべて完成済み**

- ・五條市 阪本（天辻）地区 4戸
- 宇井地区 2戸
- ・野迫川村 北股地区 5戸
- ・十津川村 谷瀬地区 4戸
- 猿飼（高森）地区 9戸 計24戸

平成24年10月 地域住宅計画奨励賞(紀伊半島大水害における十津川村応急仮設住宅建設事業)
 平成25年10月 地域住宅計画賞(復興モデル住宅建設事業)
 平成26年11月 都市住宅学会業績賞(集落景観に配慮した十津川村の災害復興公営住宅)

五條市



阪本（天辻）地区
 (平成26年5月15日撮影)



宇井地区
 (平成26年8月20日撮影)

十津川村



谷瀬地区
 (平成26年5月4日撮影)



猿飼（高森）地区
 (平成26年5月4日撮影)

野迫川村



北股地区
 (平成26年7月16日撮影)



北股地区
 (平成26年7月16日撮影)

【復旧・復興から振興へ】

・南部・東部地域づくり推進支援事業(㉗予算案 252百万円)として各市村の取組を支援

※「㉗予算案」は、平成27年度当初予算案と平成26年度2月補正予算案の合計額(以下、同じ)

- ・五條市では、宇井・清水地区、辻堂地区の集落づくりについて、道路、集会所、公園等の整備を支援
- ・野迫川村では、北股地区の集落づくりについて、道路、橋、駐車場等の整備を支援
- ・十津川村では、災害を契機とした安全・安心な集落づくりを支援(詳細は次頁参照)

◆新しい集落づくり

【これまでの取組成果】

- ・十津川村では、今後の集落づくりのモデルとなる安全・安心な集落として、谷瀬地区と高森地区を選定
- ・谷瀬地区においては、**観光や特産品の加工・販売による持続的な集落モデル**を構築するため、集落への観光客の受入れ、移住者の受入れ、特産品開発による収益の確保に取り組み
- ・高森地区においては、**高齢者が村に住み続けられる集落モデル**を構築するため、高齢者向け住宅の整備と集落空間の整備に取り組み

やりがい・生きがい『谷瀬』プロジェクト



観光客も参加した地域行事の様子



住民ワークショップ

- 谷瀬集落の住民と共にワークショップを重ねながら、ゆうべしや高菜などの特産品づくり、展望台や散歩道の整備など様々な取組を推進。
- 平成26年度に集落内の空き家を1戸買収、平成27年度にその空き家を活用して、特産品加工所や体験型宿泊施設等も視野に入れながら整備を実施予定。

助け合い・支え合い『高森』プロジェクト



高森のいえプロジェクト推進委員会



高森のいえ模型

- 平成26年度に、明治大学園田眞理子教授を委員長とした「高森のいえプロジェクト推進委員会」を設置。
- 村内で住み続けられる住まい方モデルの実現のために、高森集落での高齢者の住まいの議論を実施。
- 平成26年度に設計者を選定し、平成27年度に設計、平成28年度に住宅を建設の予定。

【復旧・復興から振興へ】

- ・谷瀬地区では、住民の特産品開発に向けた取組を支援するとともに、村が行う加工所の整備を補助
- ・高森地区では、村が行う高齢者向け住宅を中心とした集落の整備を補助

◆インフラ等の復旧状況

◇大規模崩壊への対策

【これまでの取組成果】

大規模崩壊対策が必要となった箇所について

- ・ 県実施の12箇所のうち、平成26年度末までに**9箇所**完了の予定（平成27年1月31日現在で6箇所完了済み）
3箇所は平成27年度に完了の予定
- ・ 国実施中の6箇所については、平成28年度に完了の予定

○復旧完了箇所

【御杖村土屋原地区：土石流対策】



H26.10.16撮影

【東吉野村麦谷地区：土石流対策】



H26.8.22撮影

【天川村広瀬地区：地すべり対策】



H26.8.13撮影

【十津川村小井地区：地すべり対策】



H26.10.24撮影

【十津川村宇宮原地区：地すべり対策】



H26.7.29撮影

【十津川村今西地区：地すべり対策】



H26.10.31撮影

○国による復旧・対策状況

【五條市大塔町赤谷地区】



H27.1.16撮影

【五條市大塔町清水[宇井]地区】



H27.1.16撮影

【野迫川村北股地区】



H27.1.16撮影

【天川村坪内地区】



H26.11.6撮影

【十津川村長殿地区】



H27.1.16撮影

【十津川村栗平地区】



H27.1.16撮影

◇河川・砂防の災害復旧事業

【これまでの取組成果】

- ・河川・砂防（県管理）の災害復旧事業の114箇所のうち、平成26年度末までに**112箇所**完了の予定（完了率**98%**）（平成27年1月31日現在で110箇所完了済み）
- ・2箇所は平成27年度に完了の予定

○主な復旧完了箇所

【熊野川 十津川村武蔵地区：護岸損傷】



H23.9.26撮影

【西川 十津川村小 hands 地区：護岸損傷】



H24.11.20撮影

【西川 十津川村西中地区：護岸損傷】



H23.10.28撮影



H25.5.19撮影



H25.3.26撮影



H26.3.26撮影

◇道路の災害復旧事業

【これまでの取組成果】

- 道路災害復旧事業（県）の126箇所のうち、平成26年度末までに**124箇所**完了の予定（完了率**98%**）（平成27年1月31日現在で123箇所完了済み）
- 2箇所は平成27年度に完了の予定

○主な復旧完了箇所

【県道大台河合線 上北山村小椽地区：斜面崩壊】 【国道168号 十津川村折立地区：落橋】 【国道168号 十津川村桑畑地区：路肩決壊】



H23.12.5撮影



H23.9.5撮影



H23.9.17撮影



H25.8.22撮影



H26.2.1撮影



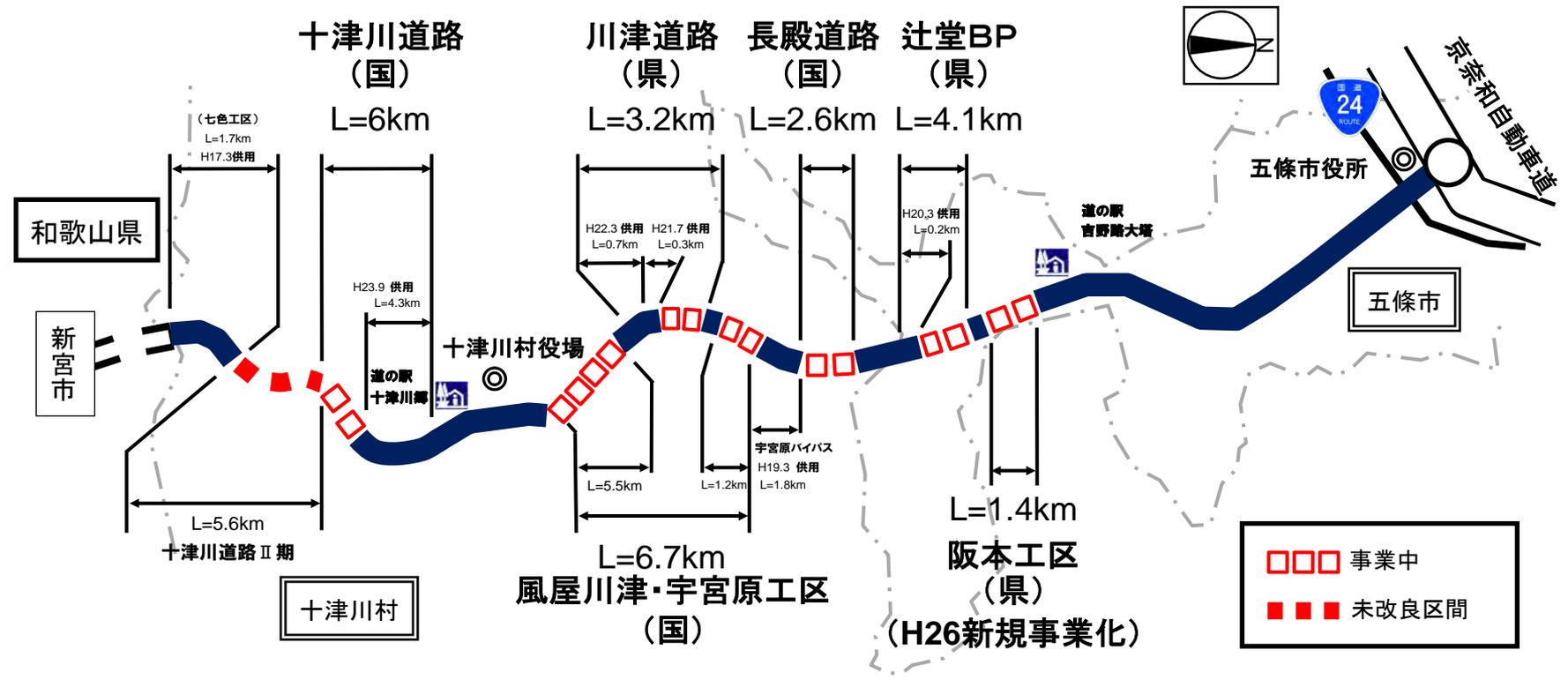
H27.1.17撮影

◆紀伊半島アンカールート

【これまでの取組成果】

- ・紀伊半島大水害後の新規事業箇所
 長殿道路(平成24年度)、風屋川津・宇宮原工区(平成25年度) (直轄権限代行)
 阪本工区(平成26年度) (国庫補助)
- ・川津道路については、平成27年度完成供用予定
- ・辻堂BPについては、平成27年度部分供用予定及び平成29年度完成供用予定

【紀伊半島アンカールート 国道168号五條新宮道路の進捗状況】



【復旧・復興から振興へ】

- ・国道168号五條新宮道路(国庫補助)の早期整備(②7予算案 3,599百万円)
- ・国道168号五條新宮道路(直轄権限代行)の整備促進(②7予算案 706百万円)

【川津道路 河津大橋】



H26.8.22撮影



H26.9.9撮影

【辻堂バイパス 猿谷大橋】



H27.1.16撮影

【辻堂バイパス 天ノ川大橋】



H27.1.28撮影

◆農林業関係の復旧状況

◇農地及び農業用施設

【これまでの取組成果】
農地74箇所、農業用施設35箇所 **すべて完了済み**

○主な復旧完了箇所

【五條市：農道の復旧】



H23.10 撮影

【野迫川村：わさび田の復旧】



H23.9.20 撮影

【十津川村：法面の復旧】



H23.9.26 撮影



H24.8 撮影



H26.5.28 撮影



H24.7.13 撮影

◇林道

【これまでの取組成果】

- ・ 主な被災箇所**187箇所**のうち、平成26年度末までに**すべて完了**の予定（完了率**100%**）
（平成27年1月31日現在で185箇所完了済み）

○主な復旧完了箇所

【曾爾村:中の山田線1号箇所】



H23. 9. 27撮影

【十津川村:川津今西線2号箇所】



H23. 9. 9撮影

【十津川村:旭沢ノ谷線1号箇所】



H23. 9. 12撮影



H24. 6. 27撮影



H24. 5. 11撮影



H24. 6. 15撮影

◇治山事業での林地崩壊の復旧状況

【これまでの取組成果】

- ・ 治山事業は、平成26年度末までに**40箇所（県37箇所、国3箇所）**完了の予定
（平成27年1月31日現在で39箇所（県36箇所、国3箇所）完了済み）
- ・ 県実施中の13箇所については、平成28年度までに完了の予定
- ・ 国実施中(予定含む)の23箇所については、平成33年度までに完了の予定

○主な復旧完了箇所

【(県)上北山村西原ナメゴ地区】



H23. 9. 27撮影



H26. 9. 30撮影

【(県)十津川村山手柏谷地区】



H25. 6. 11撮影



H26. 3. 12撮影

【(国)天川村川合地区】



H23. 9. 15撮影



H26. 6. 20撮影

【復旧・復興から振興へ】

- ・ 県による治山事業の実施(⑳予算案 1,022百万円)
- ・ 国による直轄治山事業の実施(民有林直轄治山事業費負担金)(㉑予算案 508百万円)

◆産業の復興状況

【これまでの取組成果】

- ・ 事業再建意欲のある事業所すべて（103件）が再建済み
- ・ 災害復旧対策資金貸付は、172件（4,697百万円）実施
- ・ 被災地域の物産販売促進のため、11市町村、延べ153回の物産展への開催・出展を支援

○主な被災事業者の再建状況

【坪の内オートキャンプ場(天川村)】

被災直後



※増水で流され使用出来なくなったコテージ

テントサイト、バンガローやコテージが流されるなどの被害を受けたが、平成25年5月より、営業再開している。

再建後



キャンプ場の全景



【株式会社美吉野木材(天川村)】

被災直後



倉庫が流される被害を受けたが、平成25年9月に倉庫を建て直し、現在、倉庫内で業務を再開している。

再建後



内部の様子



【復旧・復興から振興へ】

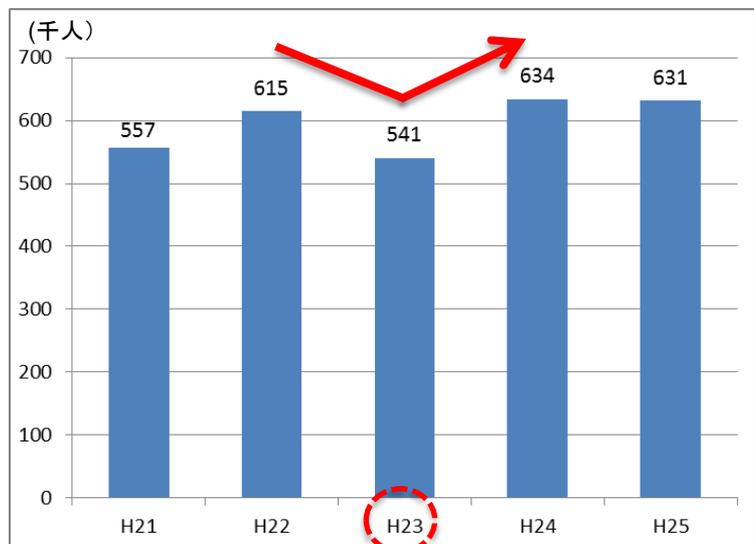
- ・ 創業支援資金に南部東部枠を新たに設けて、南部東部地域での創業を支援
(㉑融資枠2億円 予算案 3百万円)
- ・ 南部東部地域の物産販売を促進するための物産展を支援 (㉒予算案 12百万円)

◆観光業の復興状況

【これまでの取組成果】（平成23年度～26年度）

- ・観光プロモーション、プレミアム宿泊旅行券発行、南部東部地域での会議の開催支援などの取組の効果などにより、平成24年の宿泊客数は、目標としていた被災前（平成22年）の宿泊客数を上回り（3%増加）、平成25年は対前年同水準を維持
- ・JAならけんまほろばキッチン内観光案内所での利用者数は、**延べ76,228人**
- ・プレミアム宿泊旅行券は、**77,200枚**発行
- ・南部東部地域での宿泊を伴う会議の開催を、**225件（宿泊人数18,991人）**支援
- ・同地域でのスポーツイベントに、**延べ5,000人程度**が参加

宿泊客数の動向(南部・東部地域)



紀伊半島大水害発生
(H23年9月)



奈良県観光キャンペーン
(平成26年10月31日)



市町村等との連携イベント
(平成26年8月17日)



「カヌー教室」
(平成26年9月20日)



「ヒルクライム大台ヶ原since2001」
(平成26年9月14日)

【復旧・復興から振興へ】

- ・観光プロモーション、南部東部地域での合宿の支援、スポーツイベントの開催などを通じて、観光客の増加を図る
- 額面1万円を5千円で販売する「奈良県プレミアム宿泊券」の発行 (㉗予算案 600百万円)
- オフシーズンの観光誘客 (㉗予算案 32百万円)
- 奥大和プロモーション (㉗予算案 31百万円)
- スポーツ・文化活動による交流促進 (㉗予算案 22百万円)

◆福祉の充実

【これまでの取組成果】

- ・五條市大塔町及び十津川村において、山間地域における地域包括ケアの実現に向けたモデル事業を実施
- ・大塔町では、「**おおとう元気会議**」を立ち上げ、地域住民や郵便局、消防署等多様な機関が参加し、高齢者の見守りや配食サービス等の生活支援の仕組みを構築
- ・十津川村では、**高齢者向け福祉施設**を設計中
- ・避難者のこころの不調の予防とケアを行うため、**臨床心理士を派遣**（122回・対象者延べ293名）

○事業の成果

【おおとう元気会議：消防署による訪問・見守り】



【臨床心理士による被災者グループワーク】



【復旧・復興から振興へ】

- ・「おおとう元気会議」の取組成果を他地域に普及
- ・十津川村における「地域で暮らし続けるための仕組みづくり」を支援（②⑦予算案 1百万円）
- ・仮設住宅から自宅や復興住宅等に帰宅した住民のこころのケアのため、臨床心理士を各市村に派遣（②⑦予算案 1百万円）

◆安全・安心への備え

◇深層崩壊のメカニズム解明と対策研究／監視・警戒・避難のシステムづくり

【これまでの取組成果】

- ・「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告」を公表
- ・「奈良県深層崩壊マップ」とその解説冊子を作成し、市町村の地域防災計画の見直し等を支援
- ・3カ年の調査・研究によって得られたデータは「紀伊半島大水害 大規模土砂災害アーカイブ」として県立図書館情報館等へ収蔵し公開（平成27年3月末）
- ・監視・警戒・避難のシステムづくりでは、地域ごとに災害発生時の適切な行動につながる警戒避難体制の構築を目指し、現地でのワークショップ等を踏まえ、「土砂災害地域防災マップづくりガイドライン」とその事例集を作成

紀伊半島大水害で被災した地域では、3年間の取り組みを通じ、地域の防災意識が高まり、着実に地域防災力が向上しています。

国際防災学会インタープリVENT2014奈良大会、県主催の防災セミナーやパネル展等を通じて、調査・研究成果の情報発信をおこないました。



地域での防災ワークショップ
(天川村)



土砂災害防災訓練のようす
(黒滝村)



インタープリVENT2014開会式



防災セミナーの開催状況

国際防災学会インタープリVENT2014奈良大会

開催日 : 平成26年11月25日(火)～28日(金)
開催場所 : 奈良県新公会堂 能楽ホール ほか
参加者 : 25カ国 406名(うち、海外から83名)

防災セミナー(県主催)

紀伊半島大水害から3年“大規模土砂災害に備える”
～奈良から世界へ情報発信～

開催日 : 平成26年11月24日(月・祝)
開催場所 : 奈良県文化会館 小ホール
参加者 : 219名(うち、海外から19名が参加)

【復旧・復興から振興へ】

- ・災害教訓を風化させず、地域の防災力向上に向け、継続的にマップづくり等の技術的支援

◇地域防災計画の見直し

【これまでの取組成果】

- ・奈良県地域防災計画を見直し
- ・市町村地域防災計画の見直しを支援

◇災害時のライフライン(電気・通信等)の強化

【これまでの取組成果】

- ・避難所の機能強化 ※非常用電源の整備253箇所（H27.3末見込）、衛星携帯電話の整備83台増加など
- ・消防防災ヘリコプターテレビ電送システムの整備

◇記録の整備、次世代への継承

【これまでの取組成果】

- ・災害記録誌と防災教育教材（DVD）を作成
- ・災害の教訓を伝えるための講演会・パネル展を開催



『奈良の災害史』発行記念講演会

【復旧・復興から振興へ】

- ・県防災行政無線の再整備と市町村防災行政無線の整備を実施（⑳予算案 192百万円）
- ・平成27年度中にすべての市町村の地域防災計画を見直し（⑳予算案 1百万円）
- ・奈良県地域防災活動推進条例の趣旨をふまえ、地域における防災力の向上を図るため、奈良県防災の日・防災週間を中心に講演会や訓練等を実施（⑳予算案 4百万円）

◆地域産業復興の取組

【これまでの取組成果】

- ・なんゆう祭を開催し、延べ25,950人が参加（1回目4,950人、2回目21,000人）
- ・農産品等による6次産業化の推進として、下北山村の春まなの生産・販売を支援
- ・有害鳥獣の駆除及び活用として、上北山村の加工施設の整備及び販売を支援

【なんゆう祭】

○平成25年度

- ・開催場所 川上村大滝ダムサイト(メイン会場)
- ・開催期間 平成25年11月23日(土)、24日(日)の2日間
- ・開催内容 南部地域物産展、そまびと選手権大会、ステージ、村弁王(村おこし弁当)決定戦など

○平成26年度

- ・開催場所 五條市大川橋下河川敷(メイン会場)
- ・開催日時 平成26年10月4日(土)、5日(日)の2日間
※4日に関しては、前夜際(おもてなしライブ)
- ・開催内容 南部東部地域物産展、やな漁体験、ステージ、ラフティング体験など

○2度の開催で、延べ25,950人が参加

○南部東部地域の特産品の生産、販売の促進、地域の魅力の発掘、創造につなげた



なんゆう祭2014

【下北山村の春まな】

- 下北春まな講習会の開催
- 農業用ハウスの完成
- 下北春まなのハウス栽培導入による生産量の拡大
- 漬物用から生食用への生産及び利用の拡大
- 県内スーパー等への出荷



下北春まなの収穫

【上北山村の加工施設】

- 処理加工施設の完成
- 獣肉利用のための捕獲及び搬入
- 村内関係者による人材育成、料理レシピ開発
- 狩猟免許取得者のふるさと復興協力隊員の配置



獣肉加工処理施設

【復旧・復興から振興へ】

- ・引き続き、南部東部地域での地域活性化につなげるためのイベントを開催(②7予算案 15百万円)
- ・農産品等の更なる6次産業化を推進(②7予算案 126百万円)
- ・有害鳥獣の駆除及び利活用(食肉利用)を支援(②7予算案 208百万円)

◆ふるさと復興協力隊

【これまでの取組成果】

- ・復興活動、地域協力活動、地域おこし活動などに従事する人材を県が直接採用し、20名を市町村に配置（平成27年2月1日現在）
- ・隊員向け研修会を4回実施 延べ67人が参加

○隊員の活動内容

五條市	3名	仮設住宅入居者などの生活支援、高齢者の買い物サービス支援等
宇陀市	2名	観光振興支援、鳥獣害対策等
高取町	1名	イベント企画運営等
下市町	2名	家具づくり等の産業振興支援、集落点検事業支援、地域情報の発信等
黒滝村	2名	農産物の生産・加工支援、村情報の発信等
天川村	1名	特産品の商品化・発掘販売促進支援等
野迫川村	2名	「のせ川のまき」を使った産業振興支援、観光情報の発信・誘客支援等
十津川村	2名	古民家を改修した宿泊施設の管理運営、木彫り・木工指導等
上北山村	3名	村おこしメニュー造成、村情報の発信、鳥獣害対策・獣肉加工支援等
下北山村	2名	地域特産物の生産販売支援等



隊員が行う買い物サービス支援の様子（五條市）



隊員が「のせ川のまき」を販売する奈良市内のアンテナショップ（野迫川村）



隊員が管理運営する旧教員住宅を改修した宿泊施設「大森の郷」（十津川村）



隊員が企画したイベントの様子「第1回大台ヶ原マラソンinかみきた」（上北山村）



隊員が村内の農産物を販売する土曜朝市の様子（下北山村）

【復旧・復興から振興へ】

- ・県で採用したふるさと復興協力隊を引き続き、市町村に配置
- ・ふるさと復興協力隊員の任期終了後の就業や定住を支援（②7予算案 68百万円）
- ・複数市町村にまたがる広域の地域振興活動に従事させるため、新たに「ふるさと創生協力隊」を配置予定（②7予算案 18百万円）

